

第116回 香港ファーストLPに見る アグネス・チャンの音楽ルーツ

今年春の選抜高校野球大会が新型コロナウイルス禍の影響で中止となりましたが、46年前の昭和49年大会で開会式の入場行進用に演奏された曲が、アグネス・チャンの『草原の輝き』でした。準優勝した徳島・池田高校が「さわやかイレブン」と称された年です。

昭和47年11月にアグネスが『ひなげしの花』でデビューする前年、母国・香港で姉といっしょに吹き込んだカバー曲『サークル・ゲーム』が大ヒット、その年、香港を訪れた作曲家・平尾昌晃がアグネスのテレビ番組に出演、彼女のファーストLPを持ち帰りレコード会社に話をもちかけたことが、アグネスの日本上陸へとつながったようです。

『サークル・ゲーム』の作者は米国のフォークシンガー、ジョニ・ミッチェルですが、映画『いちご白書』の主題歌として歌ったバフィー・セントメリー盤が広く知られています。この曲がファイチャーされたアグネスの香港産ファーストLPには、

カントリー歌手のリン・アンダーソンがヒットさせた『ローズ・ガーデン』、カーペンターズの『二人の誓い』、

名曲カルテ

昭和歌謡と いまでも



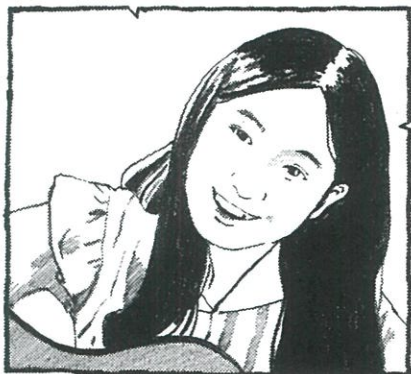
堀井六郎
絵・松本浦

キャロル・キングの『君の友だち』ほか、PPM（ピーター・ポール＆マリ）といった女性フォーク系・カントリー系のカバー作品が多く収録され、古い体質の残っていた香港音楽界の中で、ギターを弾きながら米国歌を英語のまま歌う小柄なアグネスの姿は、『妖精』のような輝きを放っていたことでしょう。

このLPには由紀さおりの『生きがい』も『SWEET DREAMS』と改題されて収録、サビの台詞部分も含めて英語で歌われていますが、編曲・歌唱法とも、アグネスが本来持っていた音楽的な嗜好を示しています。テンポを速めて口ずさむと、『草原の輝き』冒頭部分の旋律と重なることも発見できるでしょう。

彼女を「フォークの妖精」として印象付けようという思惑は、日本でのデビュー曲『ひなげしの花』の、ギターを抱えたジャケット写真や歌詞とは別にギターコード付きの譜面が印刷されていたことに表われているようです。

第2弾 シングル



『妖精の詩』で早くも、ロングヘアにミニスカートと白いハイソックス・スタイルで日本語の歌を一所懸命に歌う、という彼女のイメージが確立されます。

昭和48年7月、平尾昌晃の提供した第3弾『草原の輝き』（詞・安井かずみ）はオリコン第2位まで上昇、当時の『月刊明星』の人気投票でも女性アイドルとして天地真理に次ぐ2番目の地位まで上昇しています。翌春開催の選抜入場曲として、まさに胸を張って堂々と選抜されるに値する実績でした。

昭和58年、私が初めて香港を訪れた頃、亡きブルース・リー、人気絶頂のジャッキー・チェンとともにアグネスの名は香港を代表する有名人の一人として広く知られていて、レコードショップでは

本名の陳美齡のLPが並び、彼女がサンドイッチを食べに立ち寄っていたというお店も健在でした。不自由なく海外に行けて、さまざまイベントを心おきなく楽しむ日常が早く戻ってきますように。